

北海道駒ヶ岳の火山活動解説資料

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

北海道駒ヶ岳で、本日（23日）02時35分頃から継続時間約1分40秒の火山性微動が発生しました。今後、さらに火山活動が活発化した場合は、火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）に引き上げる可能性があります。
<噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）が継続>

○活動概況（図1～5）

本日（23日）02時35分頃から継続時間約1分40秒の火山性微動が発生しました。この火山性微動に同期して、山頂火口原方向が上がる傾斜変動を観測しました。火山性微動を観測したのは2001年1月17日以来です。

火山性微動の発生前後で火山性地震の増加はみられていません。また、山頂に設置した監視カメラによる観測では、昭和4年火口からの噴気は認められていません。

○活動評価

北海道駒ヶ岳では、2023年12月以降、山頂火口原浅部（主に深さ1km付近）を震源とする振幅の小さな火山性地震が通常よりも多い状態が続いています。

GNSS連続観測では、2022年頃から山頂火口原浅部（海拔下0～2km程度の領域）の膨張を示唆するわずかな地殻変動が観測されています。また、山頂に設置した監視カメラによる観測では、昭和4年火口のごく弱い噴気を観測する頻度が2021年頃から増加する傾向が認められています。

このように、最近の火山活動はやや高まった状態となっていますので、今後の推移には注意が必要です。

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び北海道のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』、『数値地図25000（行政界・海岸線）』及び『基盤地図情報』を使用しています。

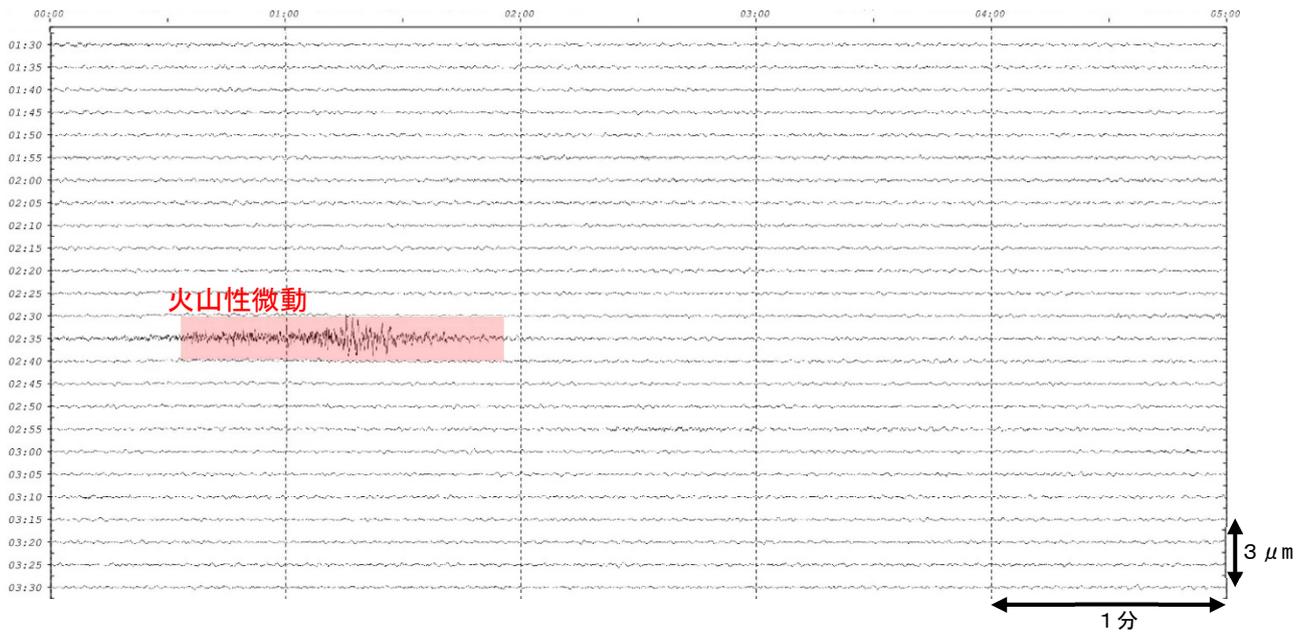


図1 北海道駒ヶ岳 西山麓観測点の上下変位波形（3月23日01時30分～03時35分）

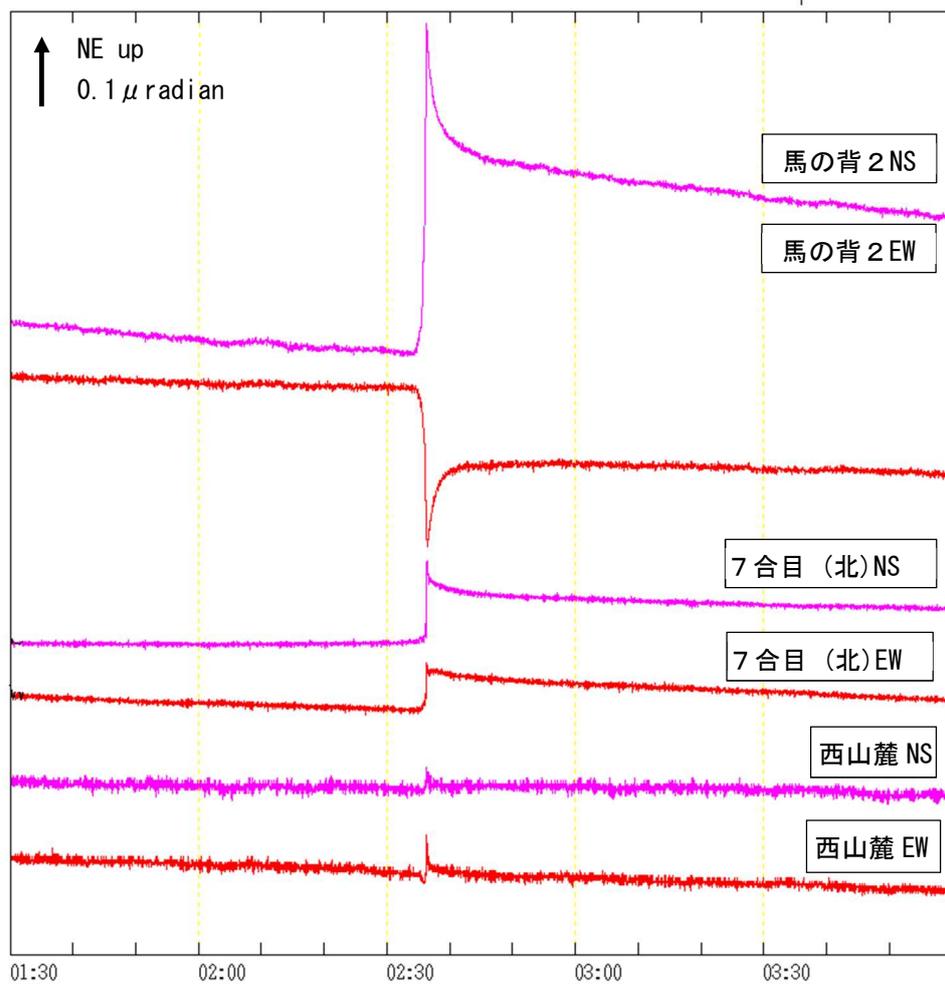


図2 北海道駒ヶ岳 3月23日の火山性微動発生時に観測された傾斜変動
（3月23日01時30分～04時00分）



図3 北海道駒ヶ岳 南西側から見た昭和4年火口付近の状況（剣ヶ峰監視カメラによる）



図4 北海道駒ヶ岳 南東側から見た山頂火口原の状況（鹿部公園南東監視カメラによる）

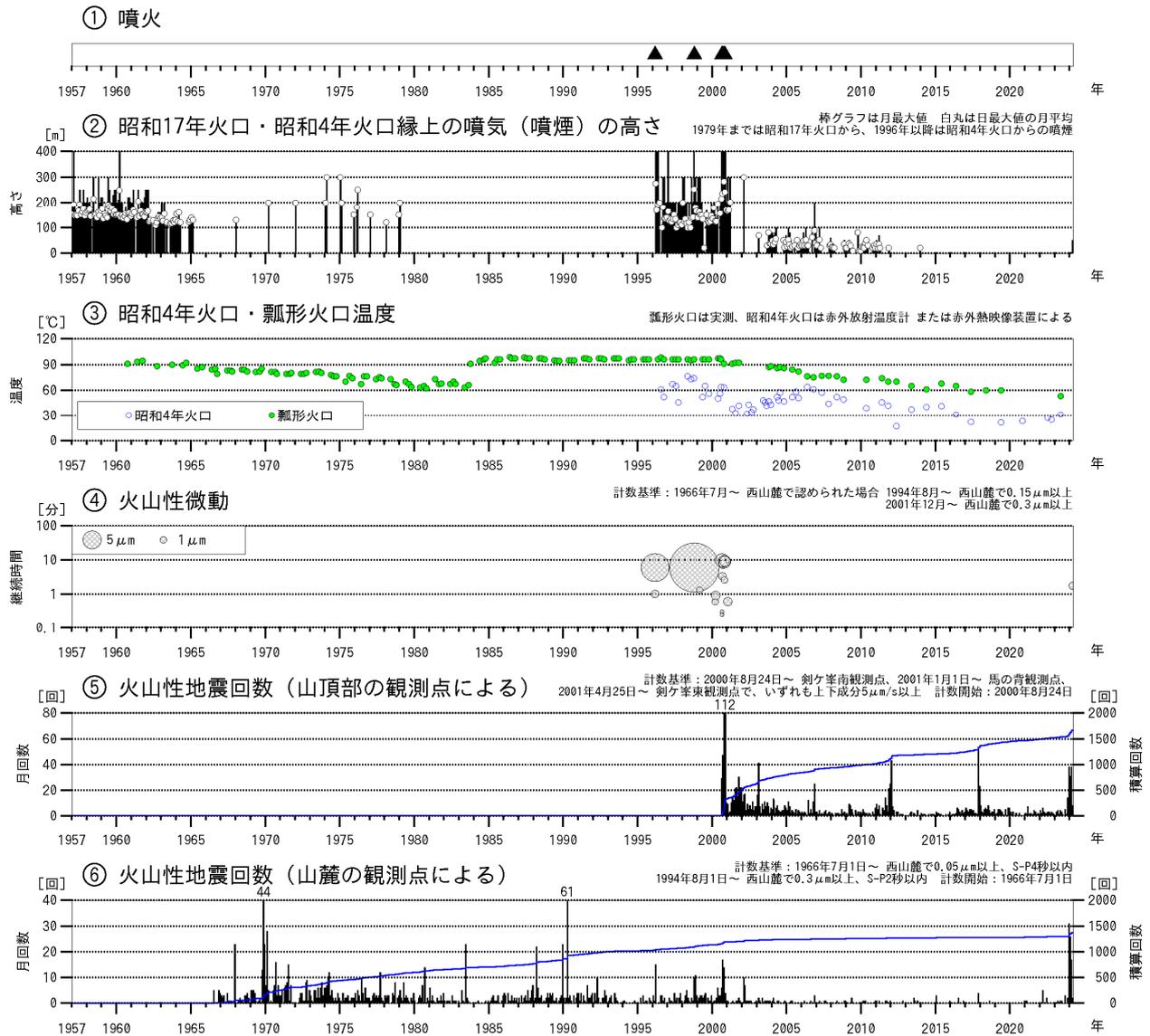


図5 北海道駒ヶ岳 火山活動経過図（1957年1月～2024年3月23日）

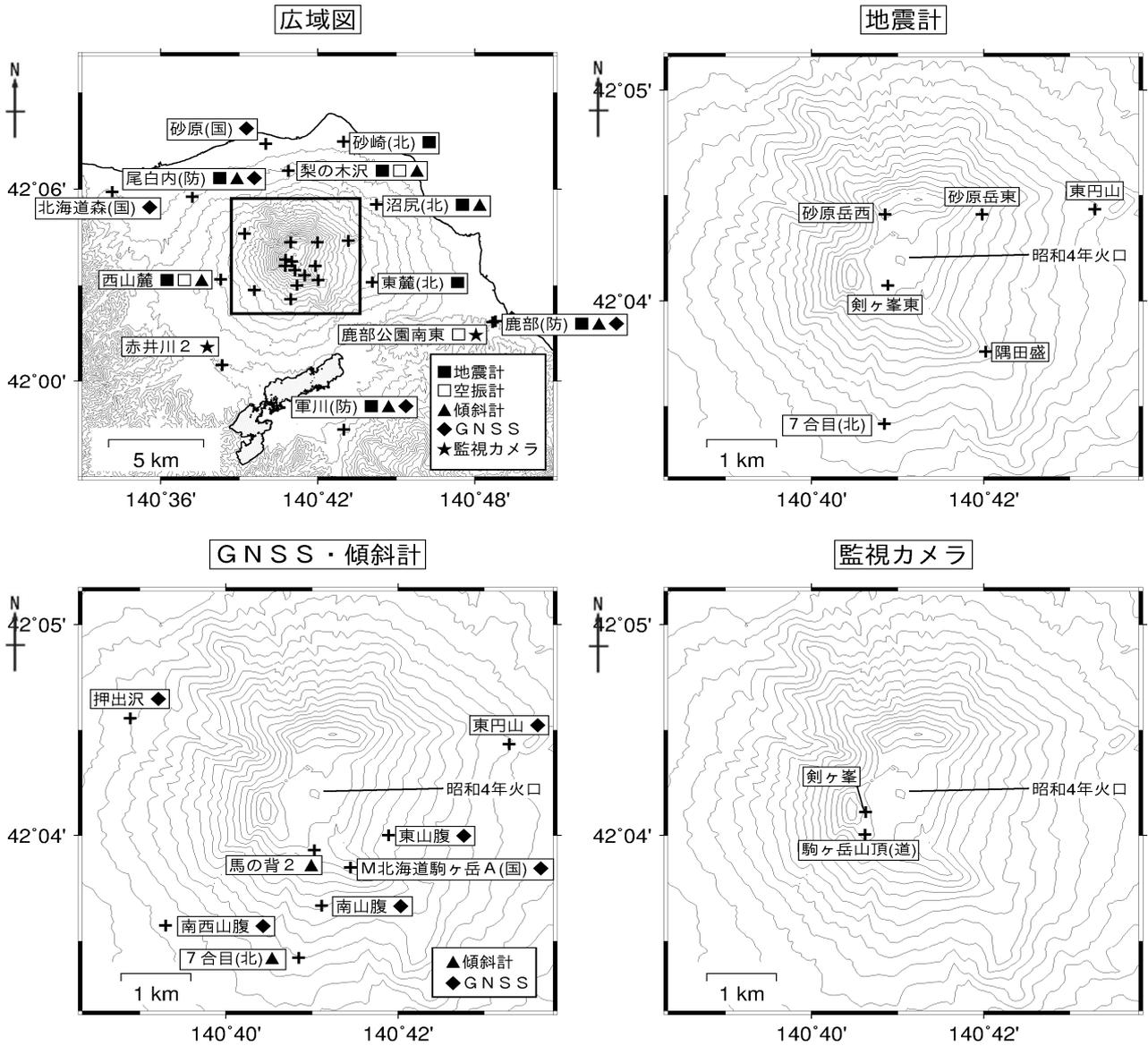


図6 北海道駒ヶ岳 観測点配置図

各機器の配置図は、広域図内の太枠線で囲まれた領域を拡大したものです。+印は観測点の位置を示します。気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

(国) : 国土地理院 (北) : 北海道大学 (道) : 北海道
(防) : 国立研究開発法人防災科学技術研究所